

海業の事業計画骨子（案）【岩手県大槌町 吉里吉里漁港】 ①

1. 現状と課題

【地域・水産業の現状と課題】

- 大槌町は岩手県沿岸部のほぼ中間に位置し、天正年代から海産物の交易等で栄えてきた。特に、特産の鮭を新巻（塩鮭）に加工した「南部鼻曲がり鮭」発祥の地として知られる。東日本大震災で甚大な被害を被ったが、主要産業である漁業を中心に復興が進み、現在は漁業経営体数も震災前の77%程度まで回復してきたところである。
- 震災後はカキ・ホタテ・ワカメ養殖業を基幹として復興が進んできたが、スルメイカ、サケ、サンマといった主要魚種の不漁が原因で定置網漁業の低迷、大槌魚市場の取扱高減少等の課題が顕在化。
漁業や関連産業の縮小（加工・流通産業における原料の確保、調達価格の高騰）といった課題に直面している。

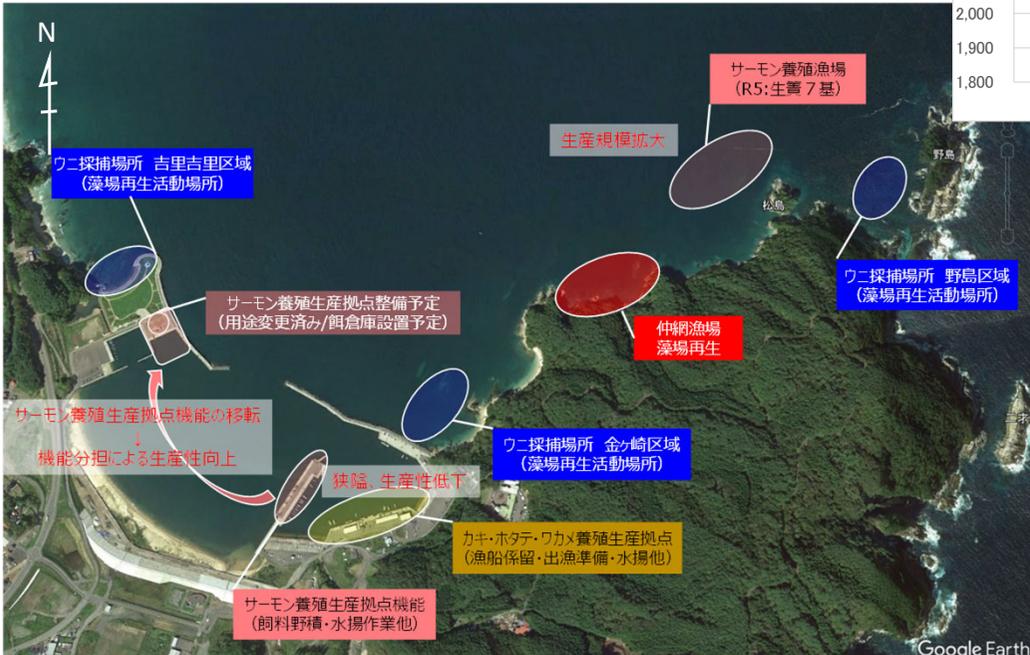
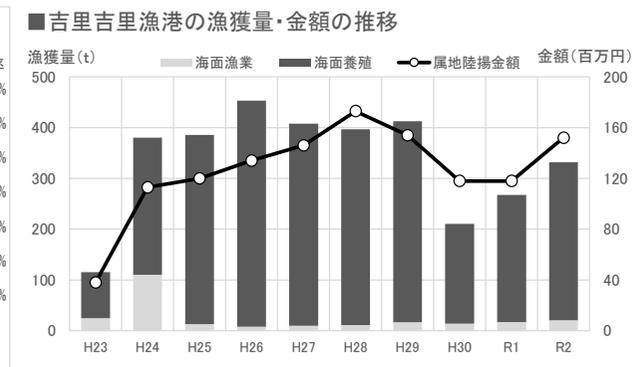
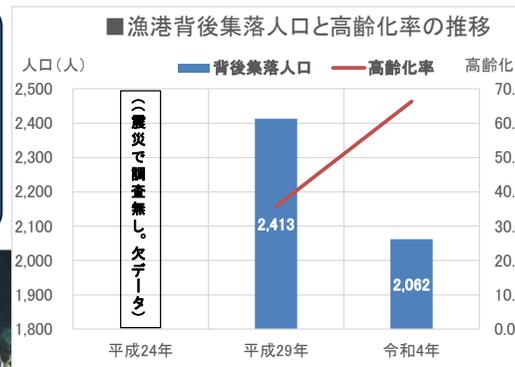


【海業の現状と課題】

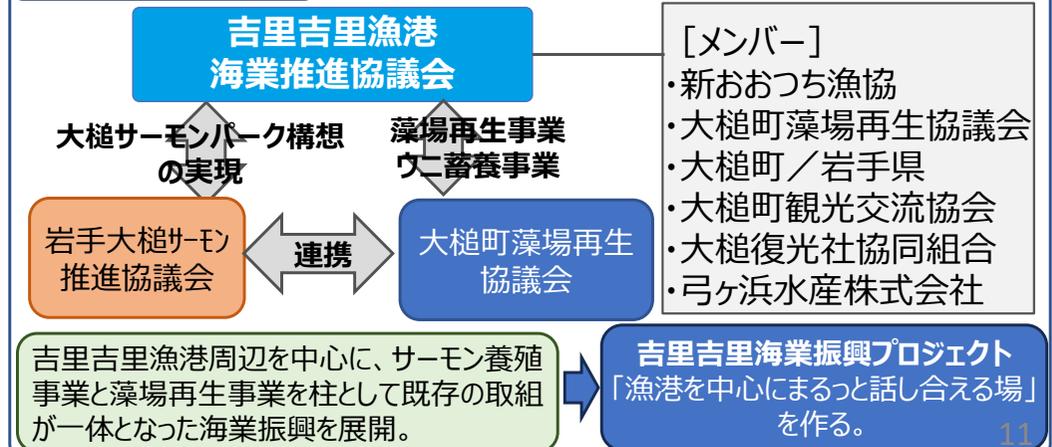
- 基幹産業の低迷による人口減少・高齢化の進行が大きな課題で、地域産業の活性化及び新産業の創出、これらによる新たな就業機会の創出が望まれている。
- 上記の課題に対し、企業との連携によるサーモン養殖業の新規導入、外部機関・団体と連携した藻場保全活動等の展開といった取組が実践され、一定の成果が挙げられている。今後は中核的取組のさらなる推進とともに、有機的な連携を図って相乗効果を上げていく仕組みづくりが必要。

【海業の課題の解決方向】

- ①サーモン養殖業の規模拡大と生産性の向上 + 藻場再生活動の推進と連動したウニ蓄養事業の事業化
- ②上記2事業と連動した観光、教育関連事業の展開



2. 検討体制



海業の事業計画骨子（案）【岩手県大槌町 吉里吉里漁港】②

3. 海業の方針

新たな産業として地域に根付いてきた「**岩手大槌サーモン養殖事業**」と、活動実績を積み重ねてきた「**藻場再生事業**」及び「**ウニ蓄養事業**」を中核とし、地域の基幹産業である「**養殖業**」の振興を図る。加えて、これら**中核事業から派生する事業も含めて連携体制を構築し、地域全体で「海業」を推進する**（**吉里吉里漁港を中心にもろっと話し合える場の創出 = 吉里吉里漁港海業振興プロジェクト**）。

【取組】

- 岩手大槌サーモン養殖事業の成長産業化（生産規模の拡大、必要となる漁港施設機能の整備）
- 藻場再生事業及び、ウニ蓄養事業の事業化
- （上記取組とも連動した）観光・交流、海洋学習事業の展開

※現在検討中（変更の可能性あり）

4. 海業の具体的な取組・実施主体（案）・期待される効果

【岩手大槌サーモン養殖事業の成長産業化】

・養殖生産拡大に向けた具体策の検討・実践

- 1)内水面養殖（中間育成）施設の整備
- 2)吉里吉里漁港の養殖拠点機能施設整備の検討※
- 3)地元漁協組合員等による養殖業参入の検討※

・「岩手大槌サーモン祭り」等での消費拡大・PR活動

【期待される効果】

- 漁業所得の向上
- 地域の雇用の創出
- 加工・流通等関連産業への経済波及

【藻場再生事業及び、ウニ蓄養事業の事業化】

・磯焼けにより消失した藻場の再生・保全活動の継続

- 1)磯焼け対策活動（ウニ駆除等）の継続
- 2)藻場再生協議会事務局の運営
- 3)Jブルークレジット活用による持続可能な保全活動の実現

・磯焼け対策活動で生じる痩せウニの有効活用

- 1)痩せウニの蓄用試験の実施（陸上・海面での蓄養試験）

【期待される効果】

- 漁業所得の向上
- 藻場保全による資源回復

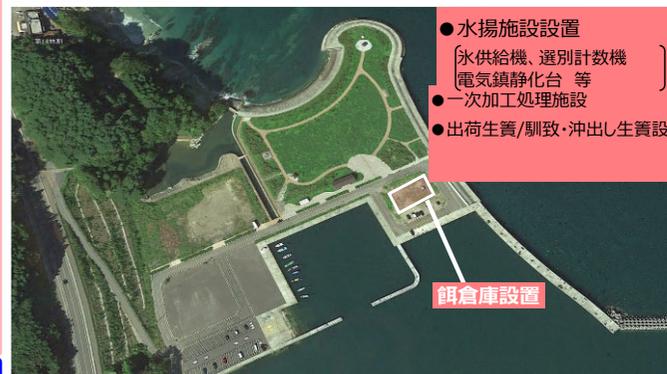
【観光、教育連携事業の展開】

・既存取組の連携による観光・交流及び海洋学習の推進

- 1)ニーズ調査、コンテンツ開発（藻場再生、スキューバダイビング、漁業体験 等）
- 2)出前授業、はま留学、教育旅行の継続・改善・発展

【期待される効果】

- 交流人口の増大
- 地域の理解増進
- 賑わい創出



岩手大槌サーモン祭り



サーモン養殖漁場の拡大

(区画漁業権設定済/R9:生簀15基 予定)



藻場再生活動の様子



地引網体験



藻場保全の出前授業